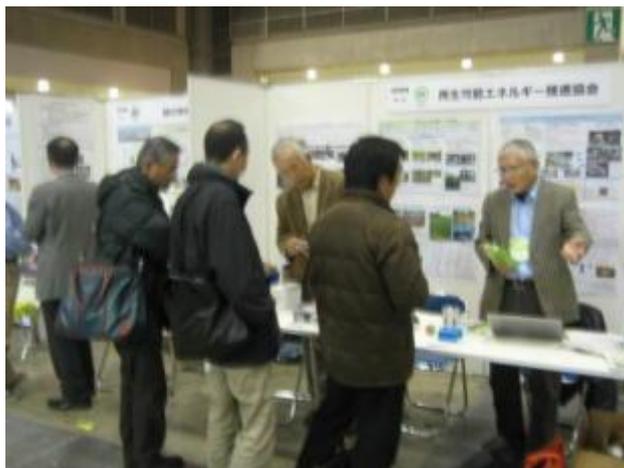


2014年12月

●エコプロダクツ2014出展（2014年12月11～13日）

12月11日～13日のエコプロダクツ2014 東京ビッグサイトに出展しました。東4ホール中央通路側 NPO・NGO コーナ(4-903:ブース番号 N-12)でした(本田技研工業の前)。連日当協会ブースにたくさんの方がこられました。手で触れる再生可能エネルギー装置の実験道具も子供から大人まで興味を持って触ったりしていました。霊山プロジェクトの活動、再生可能エネルギー普及支援、子供への教育活動などすべての領域に渡って基本的な質問から、提言まで数々の内容につき説明、話し合いさせて戴き、私どもの今後の活動に大きな示唆をいただきました。



●再生可能エネルギー学習会（2014年12月19日）

第二回環境出前授業を、12月19日(金)、伊達市小国小学校において下記の内容で実施しました。今回は、当会メンバー奥村実理事が講師を務め、当協会より佐藤代表、篠田事務局長、富成理事、小国地区交流館より大沼氏、村松氏がスタッフとして参加しました。最初の「環境とエネルギー」についての講演は、小学5,6年生には少し難しい内容でしたが、体験でのLED点灯、電気自動車の走行、ジャガイモ発電や温度差発電については、興味をもって取り組んでもらえました。風力発電機の工作では、各自持ち寄った500mlのペットボトルを使った風力発電機を作りました。苦戦する児童もいましたが、なんとか全員LEDを点灯することができました。さらに、身近にある材料(厚紙、紙コップ、ストロー、割りばし等)を使ったアイデア風車作りに挑戦しましたが、ペットボトル風車作りの経験が参考になり、多くのアイデア風車が完成しました。この授業の様子が、地元紙の福島民報、福島民友に紹介されました。



一歩討議



出来上がったアイデア風車

●霊山プロジェクト活動報告会（2014年12月20日）

12月20日にこれまで伊達市霊山で活動してきました、メタン発酵、水田除染、「新しい東北」先導モデル事業の報



尾園代表(中央 中腰)



大沼現地代表

告会が山下公民館中央集会所でおこなわれました。尾園副代表からは水田への竹炭散布、代かき、代かき後の上澄み除去、交換性カリの濃度管理等の手法を駆使することにより、お米の味を美味しく保ったまま、稲への放射性物質移行が大幅に低減された報告が行われました。



佐藤代表



夏ハゼ酒

大沼現地代表(正会員)からは「メタン発酵の取組みを顧みて」と題して、放射能で汚染された食品残渣やあんぼ柿、河川や道路のり面の雑草などを発酵装置に投入し、メタンガスの発酵状況、利用方法、今後の課題(発酵槽の温度管理、ガスの貯蔵方法、中規模の発酵設備)等が報告されました。

最後に佐藤代表理事より「新しい東北」先導モデル事業の進捗状況として、地元で生産された食材を用いた小国ブランド加工品(夏ハゼ酒、大豆利用商品、ピクルスなど)、の紹介・試食、エネルギー作物からのバイオガス製造状況の報告がおこなわれました。

●セシウム吸着材を用いる柿の木の幹巻き除染（2014年12月31日）

REPA会員 常磐井守泰氏が、伊達市霊山地区の振興に資するために、「あんぼ柿」の生産再開に役立つ技術を開発数進めてきました。具体的には、セシウムを選択的に吸着する性能を有する布状の吸着材を柿の木に巻きつけ、適時回収して放射能を測定しました。その結果に基づいて、柿の木におけるCsの動態を調べるという試験でした。報告書は会員専用HPに掲載されています。